町医者だより

平成26年04月号

＜発行・お問合せ先＞
おおわだ内科呼吸器科
院長　大和田　明彦
市川市南八幡４－７－１３
ｼｬﾝﾎﾟｰﾙ本八幡２階
ＪＲ本八幡駅南口(シャポー改札口)
２分ミスタードーナツ並び
ヘアサロンAsh向かいビル2階
電話０４７-３７９-６６６１

おおわだ
内　科
呼吸器科

更年期喘息

喘息は小児期には男児が多いのですが、成長するに従って女性患者が多くなっていきます。成人では男女比が約1：2で単純に言うと女性患者が男性患者の2倍以上になります。日頃の診療で気がつくのは、女性患者は40歳代から咳や痰がらみや息苦しさといった呼吸器症状の悪化が見られることです。患者さんには更年期前後は女性ホルモン（エストロゲン）分泌の変調をきたし、喘息に見られる気管支の炎症が強くなるからではないか、と説明してきました。女性ホルモンは気管支の炎症を抑えていると理解していたからです。今回は、更年期前後の喘息についてです。

40歳から60歳の女性で喘息の調子が悪い

まず、女性は40歳代から喘息の調子が悪いのか？　2つの論文があります。1つは2008年Journal of Asthma誌に掲載された論文です。1990年から2006年までにニューヨーク州で入院した20歳から84歳までの喘息患者の解析を行っています。ここから2つの事が分かります。1つ目は20歳から84歳までの全ての年齢で入院する喘息患者は女性のほうが常に多いことです。2つ目は男女差が最も大きくなるのは45歳から54歳です。つまり45歳から54歳で女性喘息患者は男性よりもより多く入院したことが分かります。2番目の論文は2013年にAnnuals of Allergy Asthma and Immunology誌に掲載された論文です。最初の論文を全米に拡大し喘息入院患者を解析したものです。2000年から2010年までの毎年の入院喘息患者の男女比を解析しています。喘息入院患者の総数が約306万人でその平均年齢が54.5歳です。その内訳は実に72.9%が女性でした。男女差のピークは50歳から60歳です。この2つの論文から、40～60歳の女性で喘息の調子が悪くなりやすいことを示しています。

女性ホルモンの分泌の変調が原因？

エストロゲンや黄体ホルモン（プロゲステロン）の受容体は肺にもあります。つまり肺もこれらのホルモンの影響を受けています。動物実験や細胞を用いた基礎的研究では、エストロゲンが気管支平滑筋の収縮を抑制したり、エストロゲンがないと気道過敏が生じるということで、患者さんには、冒頭のでも述べたように、女性ホルモンの分泌の変調が40歳以上の喘息の悪化に関連しているのではないか、と説明してきました。しかしながら、話はどうもそれほど単純ではないようです。先の2編の論文でも示されたように喘息は成人では女性のほうが年齢に関係なく明らかに経過が良くありません。エストロゲンは喘息の炎症を悪化させるとする論文も存在しています。また、プロゲステロンも好酸球を増やし気道の炎症を悪化させる可能性があります。さらに更年期になると好中球による炎症が気道に加わることも報告されています。